

# 米CEO 日本の6倍

## 役員報酬 世界は今

日本のCEOの報酬は欧米と差がある



企業名	ブロードコム	ロシュ(スイス)	武田薬品工業
CEO	ホック・タン氏	セヴリン・シュヴァン氏	クリストフ・ウェバー氏
報酬	117.6億円	16.7	12.1

米主要企業のCEOの報酬は2017年に平均的な従業員の前払金の361倍に達した。米労働総同盟・産別会議はこんな分析を示し、「アメリカの収入の不公平さの危機がさらに明白になった」と指摘する。

米国内で最高額だったのは半導体大手ブロードコムのホック・タンCEOで1億3221万(約117億円)。16年度比で4・2倍に急増した。メディア大手のCBSやタイムワナー、旅行予約サイトのトリップアドバイザーのトリップアドバイザー

### 首位は17億円、株式が大半

日産自動車のカルロス・ゴーン元会長の逮捕を受け、注目されている企業の役員報酬。日米欧の最高経営責任者(CEO)の報酬を比較すると、米国内が突出し、欧州も日本を凌ぎ上回る水準だ。中央値と比較すると米国内は日本の約6倍に達する。米国内の高額報酬は批判も強まっている一方、日本は現状のままでは人材獲得競争で後れを取る恐れがある。

## 人材獲得競争 高額化に拍車

イサリーのCEOも50億円以上の報酬を得た。成功測る尺度に批判の根底には「経営陣の貢献度と報酬が乖離(かいり)しているのでは」との懸念がある。例えば株価運動報酬を導入している場合、株式相場全体が上昇すれば、業績がたいして拡大してなくても高額な報酬を得られる場合がある。

ブロードコムのCEO報酬の基本給は110万(16年度は101万)とほとんど変わっていない。

「米国内は企業間の人材獲得競争が激しい」という。日産のゴーン元会長の報酬は米欧の最高財務責任者(CEO)の時から倍増した。

イリス・タワースワトンの森田純夫(ダイレクター)ため、経営陣の流出を防ぐ意味合いから同業他社を上回る水準にせざるを得ないという事情がある。「CEOのメンツ」を付度(もた)たくして、ライバル企業よりも高い報酬にするケースも少なくないという。米国内では「いかに稼ぐか」で成功の度合いを測る風潮があり、それがエスカレートしている面もある。

一方、日本のCEOでは武田薬品工業のクリストフ・ウェバー社長がトップだが、12億円強ではない。LIXILグループの瀬戸欣哉社長が約11億円、ソニーの吉田憲一郎社長は9億円と昨年の最高財務責任者(CEO)の時から倍増した。

報酬は有価証券報告書の記載ベースで7億3500万円。「先送り」していた部分を含めると、年20億円前後に達していたとの疑いがある。ゴーン元会長はフランス政府から高額報酬を批判されるのを気にしていたともされる。実際、報酬がその程度水準になると欧州勢を上回るようになる。

欧州で最高額の製薬大手ロシュのセヴリン・シュヴァンCEOの報酬は17億円強にとどまる。

日本の役員報酬も増加している。CEO報酬の上位10人分の平均値は5年前に比べて1・4倍になった。株価・業績に連動する報酬の比率が高まり、業績拡大と株高が重なった影響がある。

それでも日本の報酬水準は米欧に見劣りし、世界レベルでは優秀な経営者の獲得が難しいという問題がある。報酬コンサルティング会社、ベイカバナンス日本(東京千代田)が17年度の日米欧主要企業のCEOの報酬を調べたところ、中央値報酬額で順番に並べ、真ん中に来る値(中央値)と日本は約2億円にどまった。米国内は約12億円、その6倍。欧州も約6億円にのぼる。

外国人の役員を迎えている企業は高めの報酬を支払っている。セブン&アイ・ホールディングスのジョセフ・マイケル・デヒント取締役は米セブン・イレブン・インクから24億円強を受け取る。ソフトバンクグループはロナルド・フィッシャー取締役など3人の取締役が10億円以上だ。

### 米国のCEO報酬は突出している

	企業名	CEO	報酬(億円)	
米 国	1	ブロードコム	ホック・タン	117.6
	2	CBS	レスリー・ムーンベス	75.9
	3	タイムワナー	ジェフ・ビュクス	55.0
	4	トリップアドバイザー	ステファン・カウファー	54.5
	5	AIG	ブライアン・デュバロウ	47.9
	6	モンデリーズ・インターナショナル	ダーク・バン・デ・ブット	47.6
	7	オラクル	サフラ・キャッツ	46.0
	8	IQVIA	アリ・ブーズビ	41.7
	9	ウォルト・ディズニー	ボブ・アイガー	39.5
	10	アラガン	ブレンド・サンダース	36.5
欧 州	1	ロシュ(スイス)	セヴリン・シュヴァン	16.7
	2	アンハイザー・ブッシュ・インベプ(ベルギー)	カルロス・フリト	16.1
	3	UBS(スイス)	セルジオ・エルモッティ	16.1
	4	SAP(独)	ビル・マクダーモット	14.1
	5	ノバルティス(スイス)	ジョセフ・ジメネス	13.8
	6	ブリティッシュ・アメリカン・タバコ(英)	ニカンドロ・デウラジテ	13.2
	7	インディテックス(アパレル大手)(スペイン)	パブロ・イスラ	12.8
	8	フォルクスワーゲン(独)	マティアス・ミュラー	12.8
	9	サノフィ(仏)	オリビエ・ブランディール	12.5
	10	ロレアル(仏)	ジャンポール・アゴン	12.3
日 本	1	武田薬品工業	クリストフ・ウェバー	12.1
	2	LIXILグループ	瀬戸欣哉	11.2
	3	ソニー	吉田憲一郎	8.9
	4	日本調剤	三津原博	8.2
	5	ネクソン	オーウェン・マホニー	7.7
	6	プロスペクト	カーティス・フリーズ	7.7
	7	東京エレクトロン	河合利樹	7.6
	8	日本マクドナルドホールディングス	サラ・カサノバ	6.3
	9	ユニバーサルエンターテインメント	富士本淳	6.3
	10	ファナック	稲葉善治	5.6

(注)敬称略。欧米はパイ・ガバナンスとHKPの共同調査。日本は東京商工リサーチ、日本はCEOが社長、株主総会終了時

ルディング会社、ベイカバナンス日本(東京千代田)が17年度の日米欧主要企業のCEOの報酬を調べたところ、中央値報酬額で順番に並べ、真ん中に来る値(中央値)と日本は約2億円にどまった。米国内は約12億円、その6倍。欧州も約6億円にのぼる。

外国人の役員を迎えている企業は高めの報酬を支払っている。セブン&アイ・ホールディングスのジョセフ・マイケル・デヒント取締役は米セブン・イレブン・インクから24億円強を受け取る。ソフトバンクグループはロナルド・フィッシャー取締役など3人の取締役が10億円以上だ。

貢献度と計算 半導体大手ルネサスエレクトロニクスは18年の株主総会で役員報酬の上限を4倍に引き上げることを決めた。米ブロードコムなども適合するたため、「報酬体系もグローバル化に備えることが必要」(山並裕尚執行役員)と判断した。

経営者の能力や成果に適切に報いるだけの報酬がないと、企業の活力は失われてしまう。経営者の貢献度をどんな尺度でとらえ、どう報酬の算定に生かしていくのか。企業にとって重要な経営上の課題になっている。(次回から投資情報面に掲載します)